

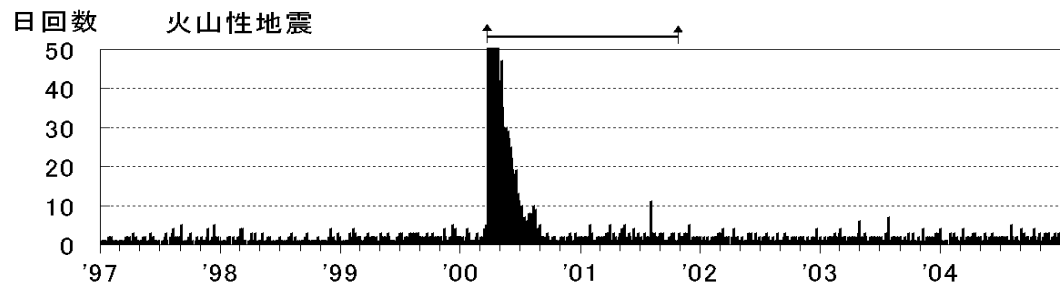
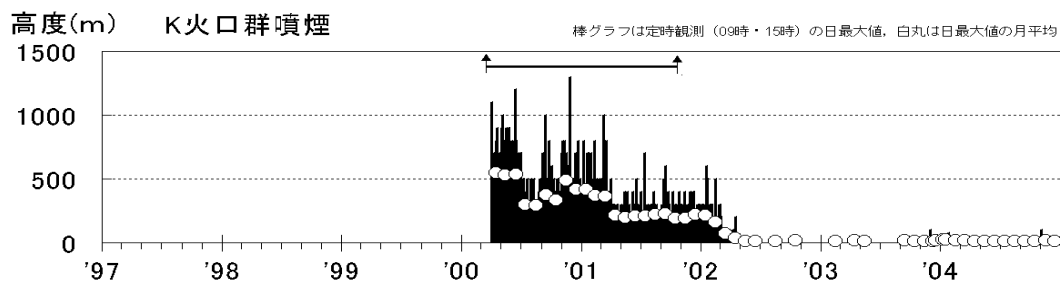
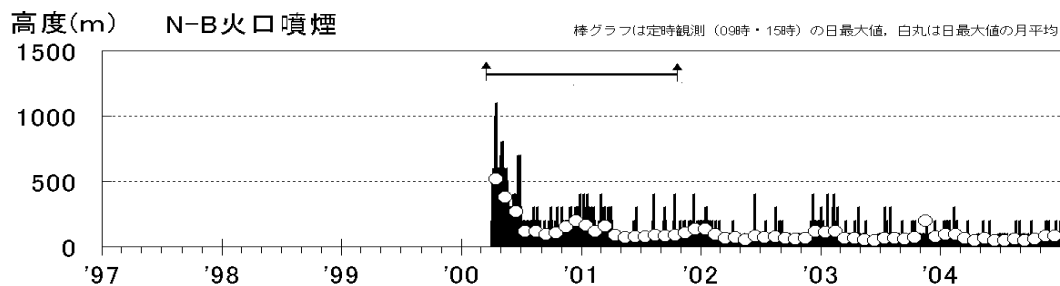
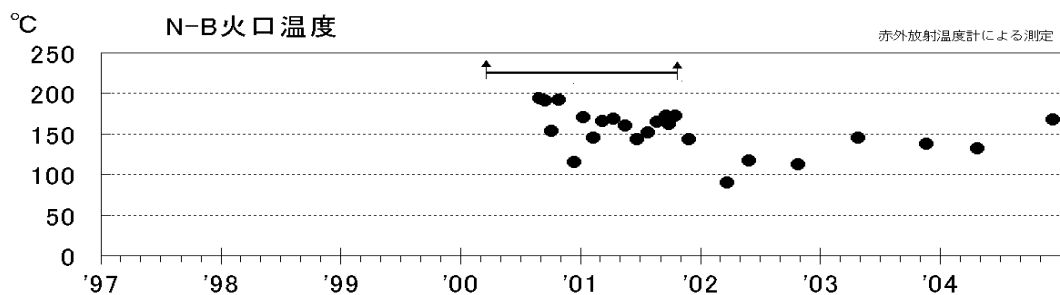
有珠山

1 概況

火山活動は静穏な状態が続いています。

2 噴煙の状況

西山西麓(N)火口群にあるN-B火口の噴煙は少ない状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。金比羅山(K)火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和新山でも少量の噴煙が見られていますが、これまでと比べて特に変わった様子は認められません。



最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2004年12月31日)

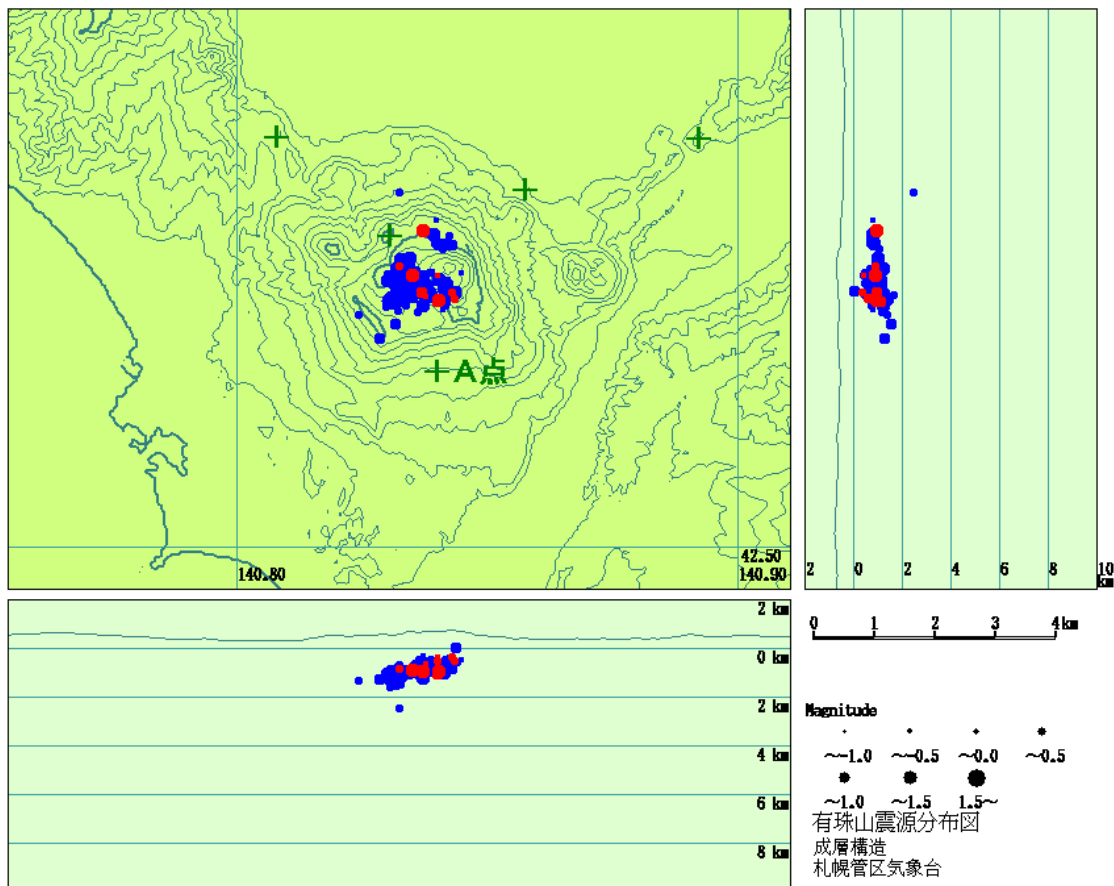
印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0~3回と少ない状態で推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数(A点)

2004年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	15	21	20	28	28	23	26	30	25	25	23	28
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



有珠山の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

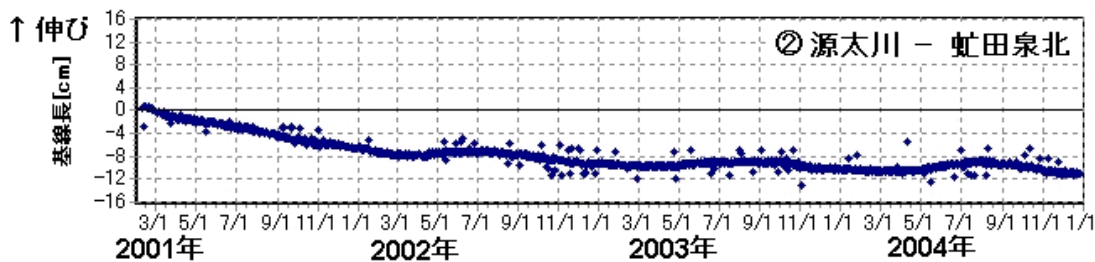
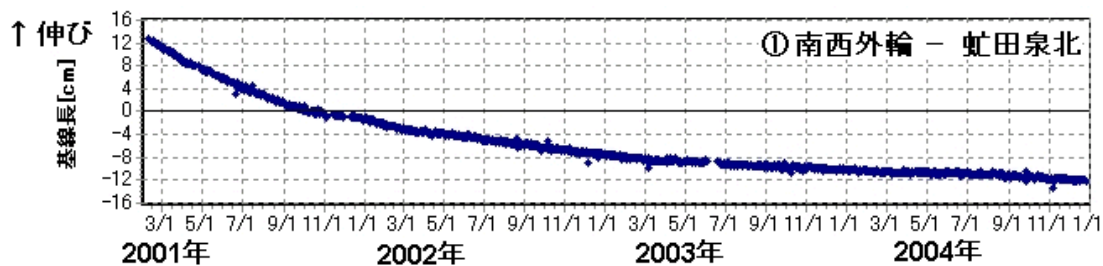
赤丸は今期間(2004年12月1日~31日)に求まった震源を示しています。

青丸は前期間までの11ヶ月間(2004年1月1日~11月30日)に求まった震源を示しています。

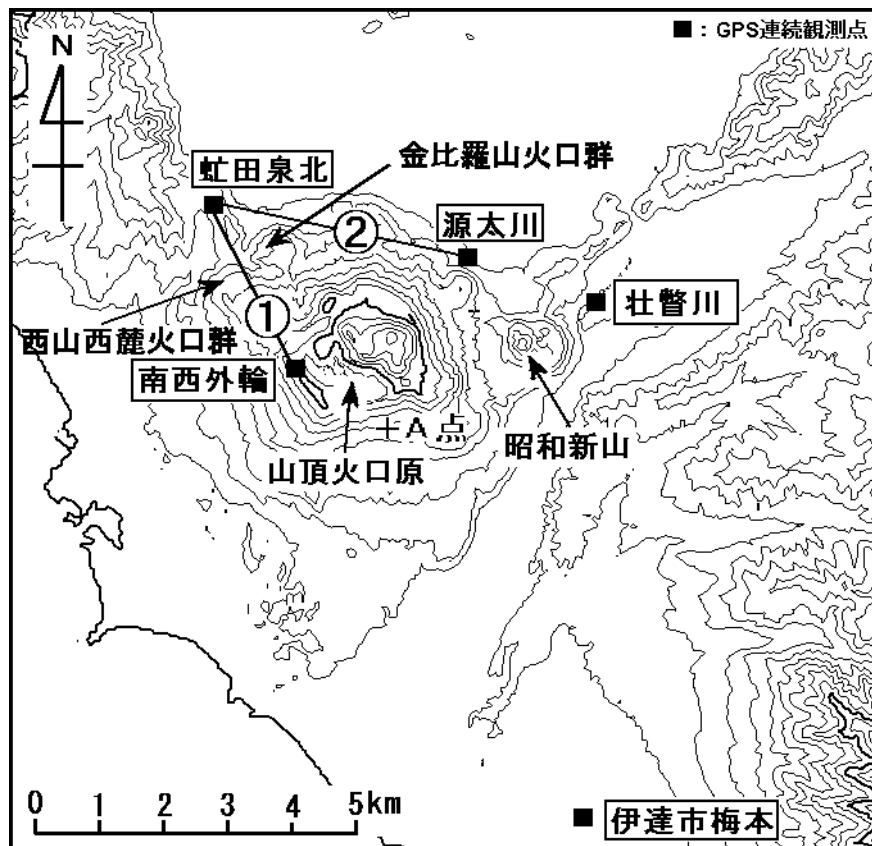
震源は山頂部直下の海拔下1km前後に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、特段の変動は認められません。



基線長変化 (2001年2月9日~2004年12月31日)



5 調査観測の結果

12月9～10日に調査観測を実施しました。

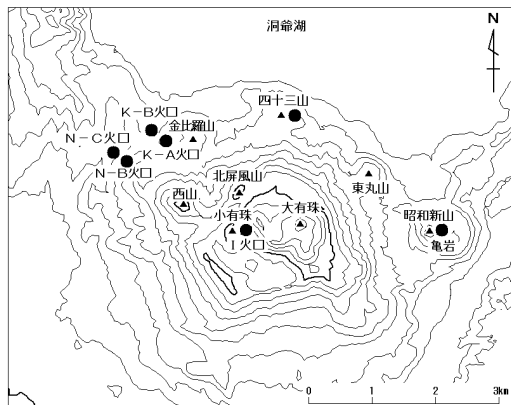
【西山西麓火口群】

N-B火口では南～西側火口壁で引き続き活発な噴気が認められました。

東側火口縁(測定距離約60m)から赤外放射温度計*で測定した最高温度は約170で、依然高温状態が続いていました(前回4月22日:約130、測定距離約80m)が、新たな熱活動の高まりは認められませんでした。

【山頂火口原】

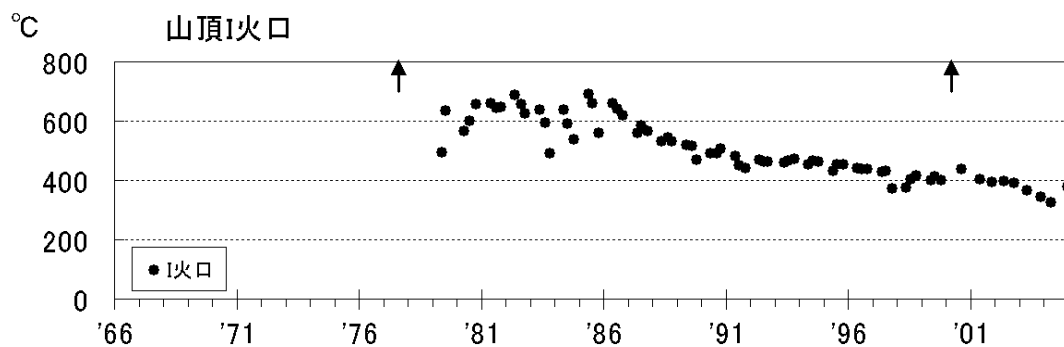
I火口では、多数の噴気孔から火山ガスが勢いよく噴出していました。噴気温度は約380(前回4月21日:約320)で高温の状態が続いていますが、長期的には低下傾向にあり、1977年噴火時に貫入したマグマの冷却過程を示していると考えられます。



有珠山 周辺図



N - B火口(12月10日撮影)



山頂I火口の温度推移(印は噴火)

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。